

## 個室ユニットケアの普及

### ●介護を必要とする人々のための居住空間として

- ・介護療養型医療施設、老人保健施設、有料老人ホーム
- ・痴呆性高齢者向けグループホーム、小規模多機能
- ・老人性痴呆疾患療養病棟
  - ・各施設固有の看護介護の歴史の尊重
  - ・各施設の対象者像の明確化
  - ・ユニットの意味、誰とどこでコミュニケーション？
  - ・チームケア ? チームナーシング
  - ・個室 ? シングルケアユニット

## 個室ユニットケアの普及

### ●介護の必要性が低い人々のための居住空間として

- ・ケアハウス、健康型有料老人ホーム
- ・シルバーハウジング、高齢者向優良賃貸住宅
  - ・食事サービスの捉え方
  - ・独立性の高い近代住戸
  - ・適切な個人空間と共用空間の模索
  - ・共同性を何で構築するか（介護度の高い人と同じ？）

### 3 : 既存特養における居住環境の改善

#### 既存改修の目的

##### ●居住環境の改善を図る

- ・ソフトの改革（個別ケアの実践）
- ・ハードの改修（個室化、ユニット化、食堂分散）

→ 既存改修は居住環境を改善するための  
一つの手法にすぎない

## 改修の基本原則

### 1. 施設職員による簡易な改修

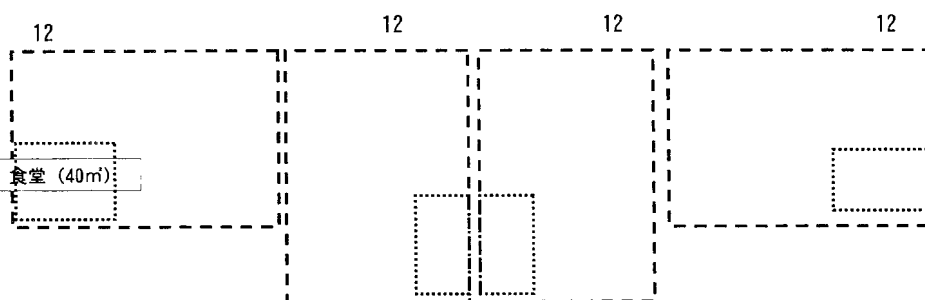
- ・家庭的な雰囲気の中で食事を行うための改修
- ・変化に富んだ居場所をしつらえるための改修
- ・居室の居住性を高めるための改修

### 2. 建築工事を伴う改修

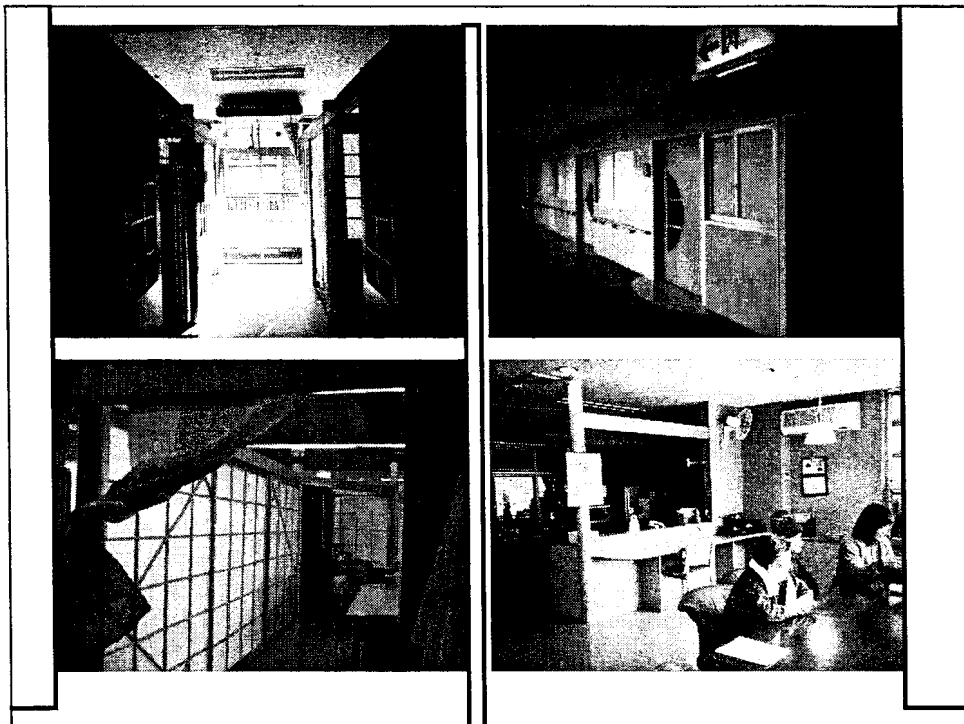
- ・個室的多床室、居室の個室化
- ・リビングの設置

大切なのは1 → 2 というプロセスを踏むこと

## 建築工事を伴う改修：内部改修のみ



- ・規模 定員48名、平屋、RC造、44.0㎡/床
- ・居室 個室的多床室へ (36.0㎡、6.0<sup>m</sup>×6.0<sup>m</sup> 8.75㎡/床)
- ・リビング 大食堂を2分割 (90㎡を2分割)、デイコーナーを食堂へ、キッチン付き
- ・費用 6000万円 (300万円/室、全額自己資金)



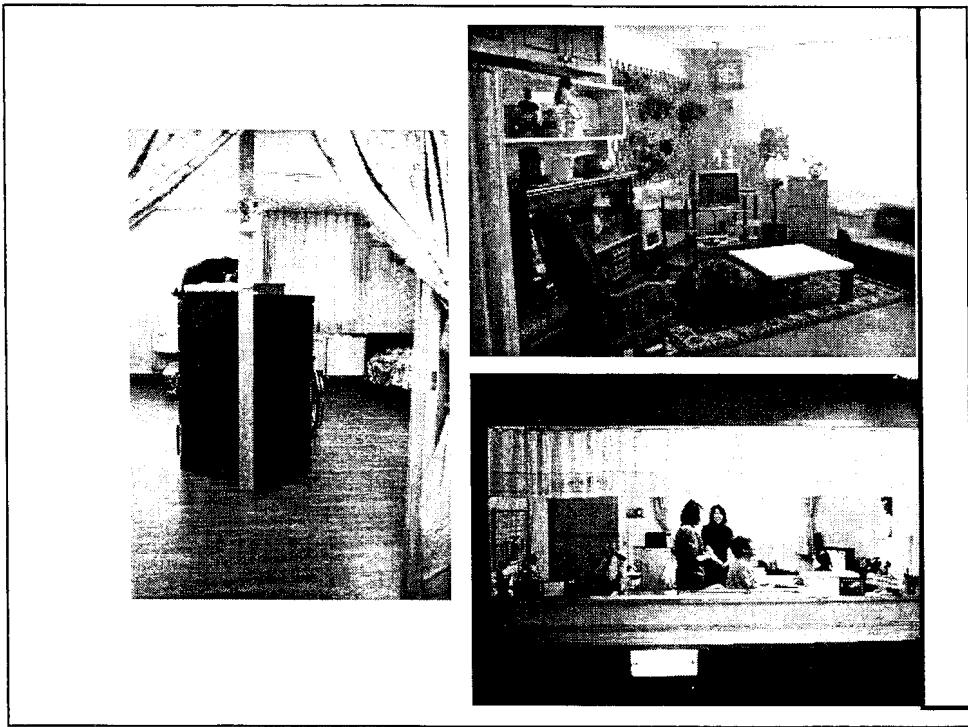
## 建築工事を伴う改修：拡張による整備

拡張部分 (30)

既存部分 (100→70)

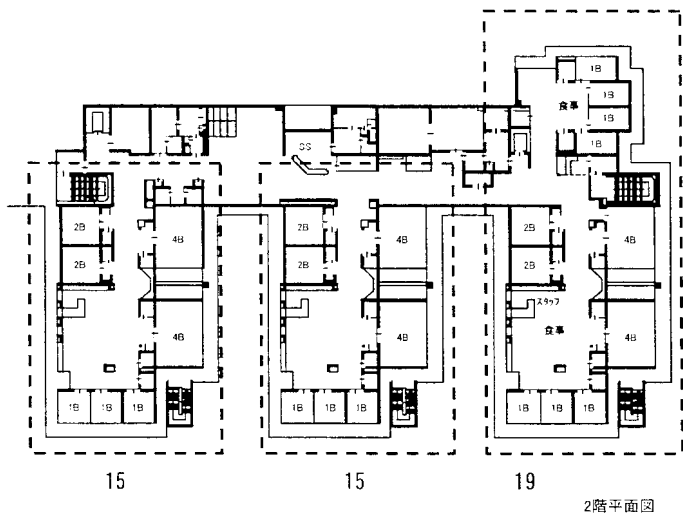
- ・規模 定員100名、平屋  
28.0㎡/床 →  
40.4㎡/床
- ・居室 既存棟 4床室  
拡張棟 個室
- ・リビング 空床4床室を  
リビング化
- ・費用 既存棟 355万円  
全額自己資金

拡張部分 補助金



拡張を伴う事例 定員150名・RC3階建

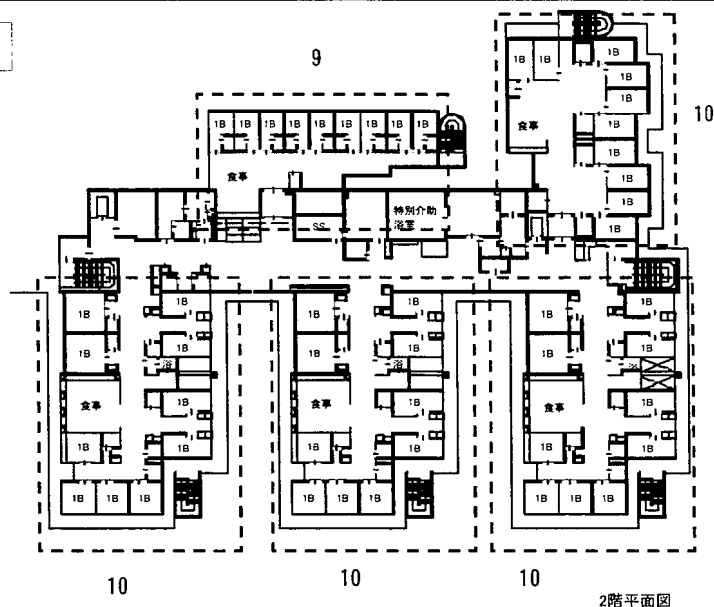
改修前



## 拡張を伴う事例

定員150名・RC3階建

改修後



## 拡張を伴う事例

定員150名・RC3階建

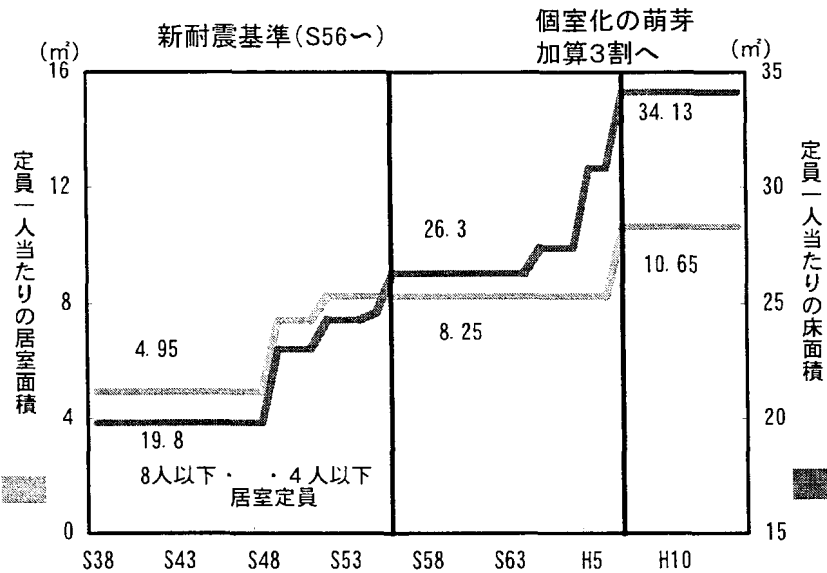
### ■改修計画のポイント

- ・小規模生活単位型と従来型の個室の扱い
- ・ユニットへの浴室の設置
- ・コンパクトな共同生活室

### ■課題

- ・1フロア5ユニットである場合の夜勤の配置
- ・億単位にのぼる改修費用の調達

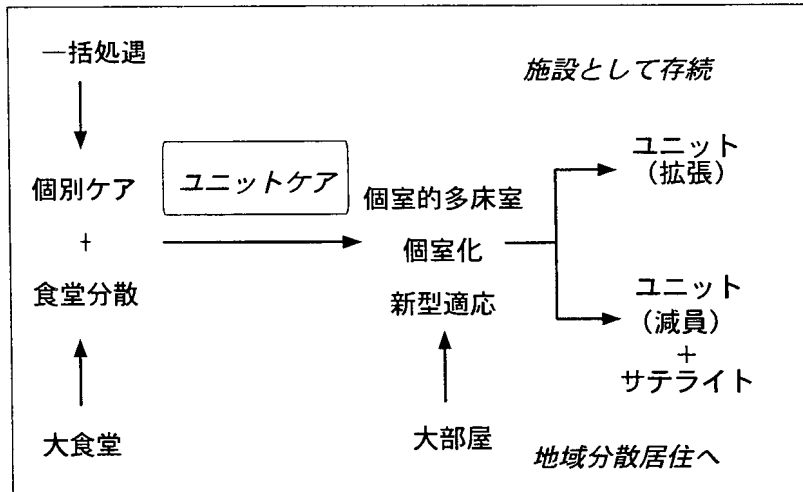
## 施設整備補助基準面積の推移



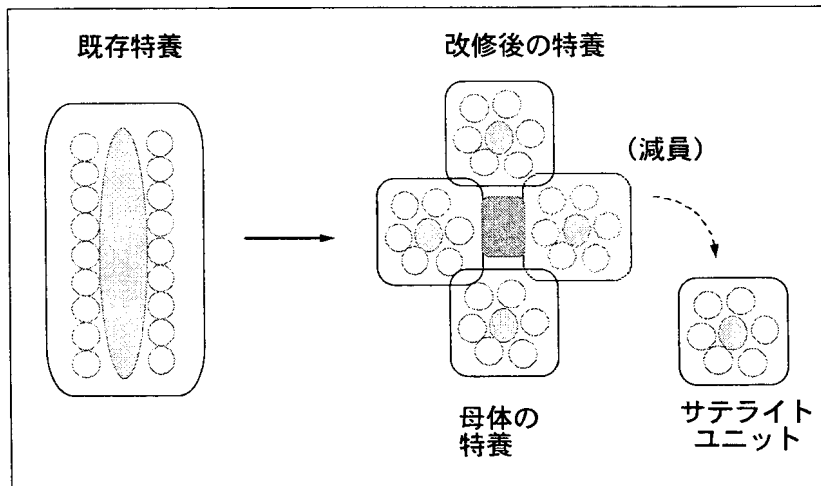
## 建設年次別にみた具体的な方向性

- 築20年以上 新耐震基準以前・狭い補助基準面積
  - 時期をみて全面改築
  - 最小限の建築工事で食堂分散を図る
- 築20年未満 H6まで 居室 8.25㎡  
H7から 居室10.65㎡
  - 食堂分散と可能な範囲での個室化
  - 定員削減もしくは削減分の分散化

## 居住改善の方向性



## 改修と地域分散居住





## 既存改修の課題

- 小規模生活単位型特養に合致した改修は  
どこまで可能なのか  
どこまですべきなのか

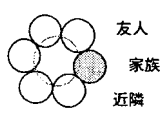
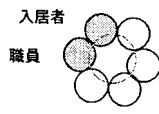
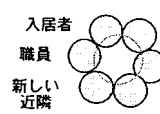
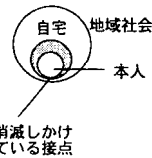
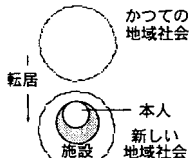
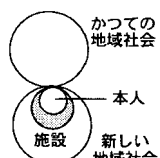
- ・施設運営者の理論
- ・ホテルコスト、高い介護報酬
- ・誰のための居住改善 立地
- ・今すべきこと（目の前にいる入居者）
- ・10年後を見据えてすべきこと（施設の再生産？）

## 4：大規模施設における 地域居住の萌芽

## 高齢者居住施設の将来像の具体

- 居住形態としての脱施設化 ?住宅化・小規模化・地域化
  - ・ 施設解体はどこまで可能か
  - ・ 小規模多機能とサテライトの違い
  - ・ 立地
  
- 内部構造としての脱施設化 ?内部完結型のシステムの克服
  - ・ 食事と介護と住宅の一体的供給
  - ・ フォーマルケア（介護保険）だけでケアを担うこと

## これからの高齢者居住のシステム

	転居前（自宅）	現在の特養	これからの居住施設
高齢者の立場	 <p>友人 家族 近隣</p> <p>家族としての立場</p>	 <p>入居者 職員 家族</p> <p>入居者としての立場</p>	 <p>入居者 職員 新しい近隣 友人 家族 近隣</p> <p>様々な立場</p>
居住のシステム	 <p>自宅 地域社会 本人</p> <p>消滅しかけている接点</p> <p>社会との接点が希薄</p>	 <p>かつての地域社会 本人 施設 新しい地域社会</p> <p>社会との接点が消滅</p>	 <p>かつての地域社会 本人 施設 新しい地域社会</p> <p>社会との接点を保持</p>

## 高齢者居住施設の将来像の具体

### ●重度な人々にとっての地域居住とは何か

- ・直接的に関わるレベルか、見たり聞こえたりするレベルか
- ・自然界という大きな流れのなかに身を置けること

## 高齢者居住施設の将来像の具体

### ●とはいえ、具体的には？

- ・「あるべき論」に働きかけること
  - ・「個」より優先すべき「共」がある
- ・「私」の快楽を追求すること
  - ・「私」が訪れたいサービスと空間
    - 中庭、レストラン、喫茶、住宅としての整備、学童、家族の居場所、そして立地